



羽田 俊介
水曜会
(70分)



訪問型病児・病後児保育事業は

問 県内初で行われたが成果と今後は。

答 ベビーシッターを活用した本事業は、実証期間の2カ月間で51世帯が登録し利用者は延べ4人であった。多くの方に登録いただき一定のニーズがあるものと考ええる。

今後も事業を継続する方向で検討している。



トライアル期間のポスター

世界バラ会議福山大会は

問 ばら公園は2006年に世界バラ会連合の優秀庭園賞を受賞し世界的評価を得たが、改修で評価が失われる懸念は。

答 その美しさに加えメンテナンスの質や品種の学術的価値が評価され、受賞した。福山大会に向けた調査で、ばらの老木化等が確認されリニューアル工事を行っている。土壌改良とともに新たに環境負荷が少なく丈夫で育てやすい品種も導入することとしており連合から高い評価をいただいている。



宮本 宏樹
公明党
(50分)



北部地域の公共交通は

問 ①神辺駅の西口広場の整備の中で福山北産業団地等へのバス路線を設置すれば、さらに利便性が高まると考えるが。

②JR福塩線は、湯田村駅より先で交通系ICカードが使用できない。免許証を自主返納した高齢者なども念頭において導入が必要と考えるが。

答 ①今後、川南地区まちづくり新ビジョンに基づく西口ロータリーの整備を予定している。バス路線の新設は地域の移動ニーズなどを踏まえ交通事業者と検討する。

②公共交通の利便性向上につながることから、これまでも沿線市町とともに県を通じて湯田村駅から府中駅までの導入をJR西日本に要望してきた。今後も、機会を捉えて要望を続ける。



*その他、新年度予算編成方針、(仮称)まちづくり支援拠点施設整備(仮称)子ども未来館整備など)について質問しました。



小林 聡勇
公明党
(45分)



介護離職の防止は

問 年々増えている介護離職者の把握は。また、本市の受け止めは。

答 2022年の就業構造基本調査の推計値では、本市のビジネスケアラーは1万3千人で、介護離職者についても増加傾向となっている。要介護認定者数の増加が今後も見込まれる中、介護離職の防止は引き続き取り組むべき課題と認識している。

地域包括支援センターの周知は

問 地域の高齢者の心身の健康維持などのために必要な支援を包括的に行う中核機関とされているが、市民への周知は。

答 2022年11月に実施した要介護認定を受けていない65歳以上を対象とした調査で、認知度は66・3%であった。ホームページでの発信に加え地域のイベントへの参加などで幅広い世代への周知を図っている。



地域包括支援センターでの相談の様子

*ビジネスケアラー：働きながら親などの介護をする人